Author Author 中 上 (中) 原(域内は、Atsushi) Publisher	Title	ラテン語字教散文Stimulus Amoris (c. 1300) の校訂					
Publisher Publ		ラテン語宗教散文Stimulus Amoris (c. 1300) の校訂					
Publisher		Š					
Publication year Jatice Jac DOI Abstract Abstract Abstract Ar プロジェクトは、「愛の様」(1300年頃)というラテン語宗教作品の底本を決定することを目的としている。「愛の様」は中世後期ヨーロッパにおいて絶大な人気を博した作品であり、500以上の写本に現存している。ここ数年来、「愛の様」の中英語翻訳(1390年代)の原典となったラテン語字を残してきたが、この対象は困難を極めるものであった。というのも、さもでもラテン語写本を探してきたが、この対象は困難を極めるものであった。というのも、さもでもラテン語写本を探してきたが、この対象は困難を極めるものであった。というのも、されらの写本は、これまでのイングランドに満りる難定によって、鬼とんどデジタル化することができた(例外は、稀覯写本のため写真機形が含される)。これもの写本は、これまでのイングランドにあける動産によって、鬼とんどデジタル化することができた(例外は、稀覯写本のため写真機形が含される)。今年度これらのデジタル化することができた(例外は、稀覯写本のため写真機形が含される)。今年度これらのデジタル化することがあり、上たは表現へのが行の、ORDIS Christ College、Cod 240 (Ox12) が、中英語歌の人の大英図書館で実地に参照するしかなかった)。今年度これらのデジタル化した写本を分析した結果、Oxford、Orpus Christi College、Cod 240 (Ox12) が、中英語歌とは、中英語歌の大力と、シののでは、大田中英語の中の信念またればに対象し、中英語歌記を中でと読めるため、中英語歌訳有がここから翻訳したことがわかる。2019年3月に行なみ、Cartitatis eterneでと読めるため。中英語翻訳有がここから翻訳したことがわかる。2019年3月に行なったイングランドでの写本調査においては、そらに15世紀に書かれたラテン語写本も参照してみた。すると、オックスフォード大学ボリアン図書館所蔵の人が行る自然自由には10年3月に行ないようなのよりでは19年3月に行なった。これもラックスフォード大学ボリアン図書館所蔵の人が行る自然自由に対す。Ravismort Abstract A							
Julice 学事振興資金研究成果実験報告書 (2018.) Abstract							
Abstract		· · ·					
本プロジェクトは、「愛の韓」は中世後即ヨーロッパにおいて総たな人気を博した作品でおり、500以上の写本に現存している。「愛の韓」は中世後即ヨーロッパにおいて総たな人気を博した作品でおり、500以上の写本に現存している。ここ数年来、「愛の韓」の中英語離け、1999年代の原典となったラデン語写本を探してきたが、この探求は困難を極めるものであった。というのも、そもそもラデン語写本の数が多すぎるためである。しかり、14世紀にイングラントに流過しており、日本ともラデン語写本の数が多すぎるためである。しかり、14世紀にイングラントに流過しており、これもの写本は、これまでのイングランドにおける調査によって、ほとんどデジタル化することができた。例外は、稀覯写本のため写真撮影が背きれない British Library、MS Royal 8. B. 8 であり、これの み大英図書館で実地に多様するしかなかった)。今年度これらのデジタル化した写本を分析した結果、八分で付、Corpus Christ College、Cod、240(CV12)が、中英語書訳の 'endless charite' に対していなけばは eterne' と読め、中英語書訳のフレーズの原典であった可能性は低いのだが、Ox12のみ、'caritatis eterne' と読め、中英語書訳のフレーズの原典であった可能性は低いのだが、Ox12のみ、'caritatis eterne' と読め、中英語書訳のアレーズの原典であった可能性は低いのだが、Ox12のみ、'caritatis eterne' と読め、中英語書訳を可して、さきにも世紀に書かれたラデン語写東たるかんでが表しないでがはまさにもいては、さらに「むせ記に書かれたラデン語写来と多様してみた。すると、オックスフォード大学ボドリアン図書館所護の Oxford, Bodleian Library、Rawlinson C. 287 イックスフォード大学ボドリアン図書館所護の Oxford, Bodleian Library、Rawlinson C. 287 イックスフォード大学ボドリアン図書館所護の Oxford, Bodleian Library、Rawlinson C. 287 イックスフォード大学ボドリアン図書館所護の Oxford, Bodleian Library、Rawlinson C. 287 である。今後はOx12を底本として「愛の韓」を校訂する作業を開始したい、What I have attempted to achieve through this project is to determine the base text of the Latin devotional text "Stimulus Amoris" (c. 1300)、which was hugely popular in late-medieval Europe, surviving as it does in more than 500 manuscripts. For the past few years, I have been the source text of the Middle English devotional text "The Prickyrge of Love"、translated from the Latin "Stimulus Amoris" in the 1390s. The search for this possible source text, however, has proved rather difficult, since it is mainly complicated by the fact that there are a huge number of Latin manuscripts. The number of Latin manuscripts. The are are a funge number of Latin manuscript. The Holdle English translation in the 1390s. The search for this possible source text, however, has proved rather difficult, since it is mainly complicated by the fact that there are a huge number of Latin manuscripts. The New Middle English devotional text "The Prickyrige of Love": translated from the Latin "Stimulu		字事振興貧金研究成果美績報告書 (2018.) 					
としている。「愛の妹」は中世後期ヨーロッパにおいて絵大な人気を博した作品であり、500以上の写本に現存している。ここ数年来、「愛の妹」の中英語翻訳(1390年代)の原典となったラテン語写本を探してきたが、この探求は困難を極めるものであった。というのも、そもそもラテン語写本の数が多すぎるためである。しかし、14世紀にイングランドに流通しており、中英語翻訳の内容を全て含む、という条件をつけると、参照すべき写本の数はでいたられる。これらの写本は、これまでのイングランドにおける調査によって、ほとんどデジタル化することができた(例外は、搭鴨写本のため写真漫影が許されない British Library、MS Royal 8、B、B であり、これのみ大英図書館で実地に参照するしかなかった)。今年度これらのデジタル化した写本を分析した結果、Oxford、Corpus Christi College, Cod. 240 (Cx12) が、中英語写本に最も近いラテン語写像大ということが判明した。というのも、他の6つの日本は、どれも中英語の 'endless charite' に対して 'civitatis eterne' と読めるため、中英語翻訳のフレーズの原典であった可能性は低いのだが、Ox12のみ、'caritatis eterne' と読めるため、中英語翻訳のフレーズの原典であった可能性のがの4、Bodleian Library、Bodley 475 (Ox9) も、同じ読みを提供することが分かった。これら3つの写本のいずれか、もしくはこれに類似した写本が、中英語翻訳者の原となった可能性が高いと言える。今後はOx12を底本として「愛の妹」を校訂する作業を開始したい。What I have attempted to achieve through this project is to determine the base text of the Latin devotional text "Stimulus Amoris" (c. 1300)、which was hugely popular in late-well activation find a manuscript, or a manuscript, For the past few years, I have been struggling to find a manuscript, or a manuscript that was copied from that manuscript, which may have been the source text of the Middle English devotional text "Stimulus Amoris" (c. 1300)、which was hugely popular in late-well activation find a manuscript, in circulated in England in the fourteenth century (and there precede the first English translation in the 1390s.) and (ii) contain all the chapters in the English translation. Thus, one comes up with the following seven manuscripts that satisfy the aforementioned conditions: Ch1: Cambridge, Corpus Christi College, MS 25: Cambridge, Corpus Christi College, MS 25: Cambridge, Corpus Christi College, MS 25: Cambridge, Corpus Christi College, MS 26: Cate Cate Cate Cate Cate Cate Cate Cate							
Genre Research Paper		としている。「愛の棘』は中世後期ヨーロッパにおいて絶大な人気を博した作品であり、500以上の写本に現存している。ここ数年来、「愛の棘』の中英語翻訳(1390年代)の原典となったラテン語写本を探してきたが、この探求は困難を極めるものであった。というのも、そもそもラテン語写本の数が多すぎるためである。しかし、14世紀にイングランドに流通しており、中英語翻訳の内容を全て含む、という条件をつけると、参照すべき写本の数が了つに絞られる。これらの写本は、これまでのイングランドにおける調査によって、ほとんどデジタル化することができた(例外は、稀覯写本のため写真撮影が許されない British Library, MS Royal 8、B、8 であり、これのよ英図書館で実地に参照するしかなかった)。今年度これらのデジタル化した写本を分析した結果、Oxford、Corpus Christi College、Cod、240(Ox12)が、中英語写本に最も近いラテン語原典だということが判明した。というのも、他の6つの写本は、どれも中英語の 'endless charite' に対して 'civitatis eterne' と読め、中英語翻訳のフレーズの原典であった可能性は低いのだが、Ox12のみ、'caritatis eterne' と読め、中英語翻訳のフレーズの原典であった可能性は低いのだが、Ox12のみ、'caritatis eterne' と読め、中英語翻訳のフレーズの原典であった可能性は低いのだが、Ox12のみ、'caritatis eterne' と読めるため、中英語翻訳者がここから翻訳したことがわかる。2019年3月に行なったイングランドでの写本調査においては、さらに15世紀に着かれたラテン語写本も参照してみた。すると、オックスフォード大学ボドリアン図書館所蔵のOxford、Bodleian Library, Rawlinson C、28(Ox8) および Oxford, Bodleian Library, Bodley 475 (Ox9) も、同じ読みを提供することが分かった。これら3つの写本のいずれか、もしくはこれに類似した写本が、中英語副計者の原典となった可能性が高いと言える。今後はOx12を底本として「愛の辣湯」を校打する作業を開始したい。What I have attempted to achieve through this project is to determine the base text of the Latin devotional text "Stimulus Amoris" (c. 1300)、which was hugely popular in late-medieval Europe, surviving as it does in more than 500 manuscripts. For the past few years, I have been struggling to find a manuscript, or a manuscript that was copied from that manuscript, which may have been the source text of the Middle English devotional text "The Prickynge of Love", translated from the Latin "Stimulus Amoris" in the 1390s. The search for this possible source text, however, has proved rather difficult, since it is mainly complicated by the fact that there are a huge number of Latin manuscripts which (i) circulated in England in the fourteenth century (and there precede the first English translation in the 1390s), and (ii) contain all the chapters in the English translation. Thus, one comes up with the following seven manuscripts that satisfy the aforementioned conditions: Ch1: Cambridge, Corpus Christi College, MS 137; Cb2: Cambridge, Corpus Christi G					
	Notes						
LIRI https://koara.lib.kejo.ac.in/xoonins/modules/xoonins/detail.php?koara_id=2018000005-20180204	Genre	Research Paper					
integration in the property of	URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180204					

保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	准教授	一補助額	200 (B) 千円
	氏名	井口篤	氏名 (英語)	Atsushi Iguchi		200 (B)	6) TH

研究課題 (日本語)

ラテン語宗教散文 Stimulus Amoris (c. 1300) の校訂

研究課題 (英訳)

Editing the Latin devotional treatise "Stimulus Amoris"

1. 研究成果実績の概要

本プロジェクトは、『愛の棘』(1300 年頃) というラテン語宗教作品の底本を決定することを目的としている。『愛の棘』は中世後期ヨーロッパにおいて絶大な人気を博した作品であり、500 以上の写本に現存している。ここ数年来、『愛の棘』の中英語翻訳 (1390 年代) の原典となったラテン語写本を探してきたが、この探求は困難を極めるものであった。というのも、そもそもラテン語写本の数が多すぎるためである。しかし、14 世紀にイングランドに流通しており、中英語翻訳の内容を全て含む、という条件をつけると、参照すべき写本の数は 7つに絞られる。これらの写本は、これまでのイングランドにおける調査によって、ほとんどデジタル化することができた (例外は、稀覯写本のため写真撮影が許されない British Library, MS Royal 8. B. 8 であり、これのみ大英図書館で実地に参照するしかなかった)。今年度これらのデジタル化した写本を分析した結果、Oxford, Corpus Christi College, Cod. 240 (Ox12) が、中英語写本に最も近いラテン語原典だということが判明した。というのも、他の6つの写本は、どれも中英語の 'endless charite' に対して 'civitatis eterne' と読め、中英語翻訳のフレーズの原典であった可能性は低いのだが、Ox12 のみ、'caritatis eterne' と読めるため、中英語翻訳者がここから翻訳したことがわかる。2019 年 3 月に行なったイングランドでの写本調査においては、さらに 15 世紀に書かれたラテン語写本も参照してみた。すると、オックスフォード大学ボドリアン図書館所蔵の Oxford, Bodleian Library, Rawlinson C. 287 (Ox8) および Oxford, Bodleian Library, Bodley 475 (Ox9) も、同じ読みを提供することが分かった。これら3つの写本のいずれか、もしくはこれに類似した写本が、中英語翻訳者の原典となった可能性が高いと言える。今後は Ox12 を底本として『愛の棘』を校訂する作業を開始したい。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

What I have attempted to achieve through this project is to determine the base text of the Latin devotional text "Stimulus Amoris" (c. 1300), which was hugely popular in late-medieval Europe, surviving as it does in more than 500 manuscripts. For the past few years, I have been struggling to find a manuscript, or a manuscript that was copied from that manuscript, which may have been the source text of the Middle English devotional text "The Prickynge of Love", translated from the Latin "Stimulus Amoris" in the 1390s. The search for this possible source text, however, has proved rather difficult, since it is mainly complicated by the fact that there are a huge number of Latin manuscripts. I have therefore narrowed down the possibility by concentrating on those Latin manuscripts which (i) circulated in England in the fourteenth century (and there precede the first English translation in the 1390s), and (ii) contain all the chapters in the English translation. Thus, one comes up with the following seven manuscripts that satisfy the aforementioned conditions: Cb1: Cambridge, Corpus Christi College, MS 137; Cb2: Cambridge, Corpus Christi College, MS 252; Cambridge, Trinity College, MS B.14.7; Lo8: London, British Library, MS Royal 7. A. 1; Lo10: London, British Library, MS Royal 8. B. 8; Ox2: Oxford, Bodleian Library, MS Digby 58; Ox12: Oxford, Corpus Christi College, Cod. 240. I was able to digitize all of these manuscripts during the previous visits to England (with the exception of Lo10, which is classified as a precious manuscript, and therefore must be consulted in the library only), and close analysis of one of these manuscripts, Ox12, has confirmed that this might indeed have been the source text of the Middle English translator, since only this MS among the seven MSS has 'caritatis eterne', which agrees with the Middle English translation 'endless charite'. In March 2019, I visited the British Library, the Lambeth Palace Library, and the Oxford Bodleian Library, in order to consult some fifteenth-century Latin manuscripts that contain the "Stimulus Amoris", and through analysis of two such manuscripts housed in the Oxford Bodleian Library, I have discovered that Ox8: Oxford, Bodleian Library, Rawlinson C. 287 and Ox9: Oxford, Bodleian Library, Bodley 475 might also have been copies of the possible source text, since they have 'caritatis eterne' as Ox12. From now on, I will start editing the "Stimulus Amoris" using Ox12 as the base text.

3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者) 発表課題名 (著書名・演題)		発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			